

第 61 回全日本学生剣道優勝大会 男子団体優勝報告

鍋山隆弘*

61st All Japan University Kendo Championships, Men's Group Victory Report

NABEYAMA Takahiro*

1. 全日本学生剣道優勝大会

平成 25 年 11 月 4 日、第 61 回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館にて開催された。本戦出場を目指し、各地域の予選を勝ち抜いた 64 大学(北海道 4、東北 4、北信越 3、関東 22、東海 6、関西 12、中四国 5、九州 8 大学)で大学日本一を競い、熾烈な戦いが展開された。

試合は 7 人制の団体戦で、各大学 9 名の選手を登録し、各対戦前にオーダーを提出して、先鋒、次鋒、五将、中堅、三将、副将、大将(補欠 2 名)で試合を行う。試合時間は 5 分。時間内にどちらかが 2 本を先取または 1 本を取得した状態で終了時間を迎えば勝ちとなり、時間内にお互いに有効打突がない、もしくは両者 1 本を取得し合っていれば引き分けとなる。試合者全員が試合を行った時点で勝者数の多い大学が勝ち、同数の場合は総取得本数の多い大学が勝ちとなる。勝者数、総取得本数が同数の場合は任意の代表戦を時間無制限 1 本勝負にて勝敗を決定する。

本大会の優勝回数のトップは国士舘大学が 14 回、次いで中央大学 12 回、筑波大学は過去に 10 回の優勝(第 7*、15*、28、34、38、39、45、49、50、59 回大会：*第 7、15 回大会は東京教育大学)しており、今回で 11 回目の優勝を刻んだ。

監督、鍋山隆弘。登録選手は、山下渉(4 年)、木立快(4 年)、阿部剣征(4 年)、佐藤弘隆(3 年)、竹ノ内佑也(2 年)、山下和真(2 年)、林田匡平(2 年)、加納彰大(1 年)、葛西賢祐(1 年)である。

2. 試合結果について

同年 9 月 8 日に本戦への切符を賭けた第 62 回関東学生剣道優勝大会では代表戦で国士舘大学に負け 3 位に終わったが、関東勢の高い競技レベルを考えると、全日本に向け手応えのある試合内容であっ

た。この試合では下級生の実力が上がってきたと感じる試合が多くある一方で、上級生の試合内容が芳しくなく、上級生の意識改革が全日本団体に向けての課題であった。

関東大会が終わり、「どちらに転んでもいい勝ちをどう転ばせるか、転ばせるためには 1 本 1 本の稽古に手を抜かず、1 本を取りに行く稽古を行う」ことを念頭に置き稽古に取り組むよう選手に指導を行った。午前 7 時からの朝稽古では選手同士が連続 7 本で行う地稽古(試合のように打ち合う剣道独自の稽古法)の内容が日に日に向上してきたという実感があつたため、良好な状態で試合に望めるという手応えは感じていた。

大会当日、監督はその日の調子や対戦相手のオーダーを読みながら選手を起用するが、2 回戦が関東大会準決勝で対戦し、大将戦までもつれた明治大学との試合が序盤の山場であると考えられたため、2 回戦のオーダーも考慮に入れ、1 回戦の選手起用を行った。1 回戦は危なげなく 1 本を積み重ね、6 勝 1 敗で勝利した。

2 回戦の明治大学との対戦は、関東大会で先鋒林田が微妙な判定で 2 本負けを喫したが、内容的にも実力的にも上だと信じて先鋒に起用した。その期待に応えてくれ見事に 2 本を取得し、序盤から優位な状況で試合を進め、大将戦は 2 本を奪われなければ負けない状況で、関東大会不調に終わった 4 年の主将山下渉が序盤に 1 本をとり試合を決めた。

準々決勝戦では関東大会前に体調を崩して選手から外れていた木立を起用。仕上がりが心配であったが、こちらの心配を微塵も感じさせない内容の良い試合で 2 本勝ちを収め、6 勝 1 敗で準決勝に駒を進めた。準決勝戦は、関東大会優勝の国士舘大学を本大会で代表戦の末に勝利した日本体育大学であった。先鋒林田が 2 本勝ち、次鋒加納が 1 本勝ち、五

* 筑波大学体育系
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

将木立が選手されるも逆転の2本を奪い、前半のリードを保ったまま5勝1敗で日本体育大学に勝利を取めた。

決勝戦の相手は関東大会準優勝の法政大学。先鋒林田が積極的に攻め続けている一瞬の際に胴を決められ1本負けとなった。決勝戦まで全勝で好調の加納も引き分けに終わった。その後も果敢に攻めるが、有効打突を奪えず大将戦を迎えた。大将は主将の山下渉。対するは法政大学の絶対的支柱の秀徳選手、その実力は折り紙つきであった。山下は実力を兼ね備えてはいたものの関東大会まで結果に波があったが、今大会は全勝と好調であった。前半は膠着状態が続き、後半に山下渉が面を先制し、試合をタイに戻すが、すぐさま小手を奪われ、再度リード

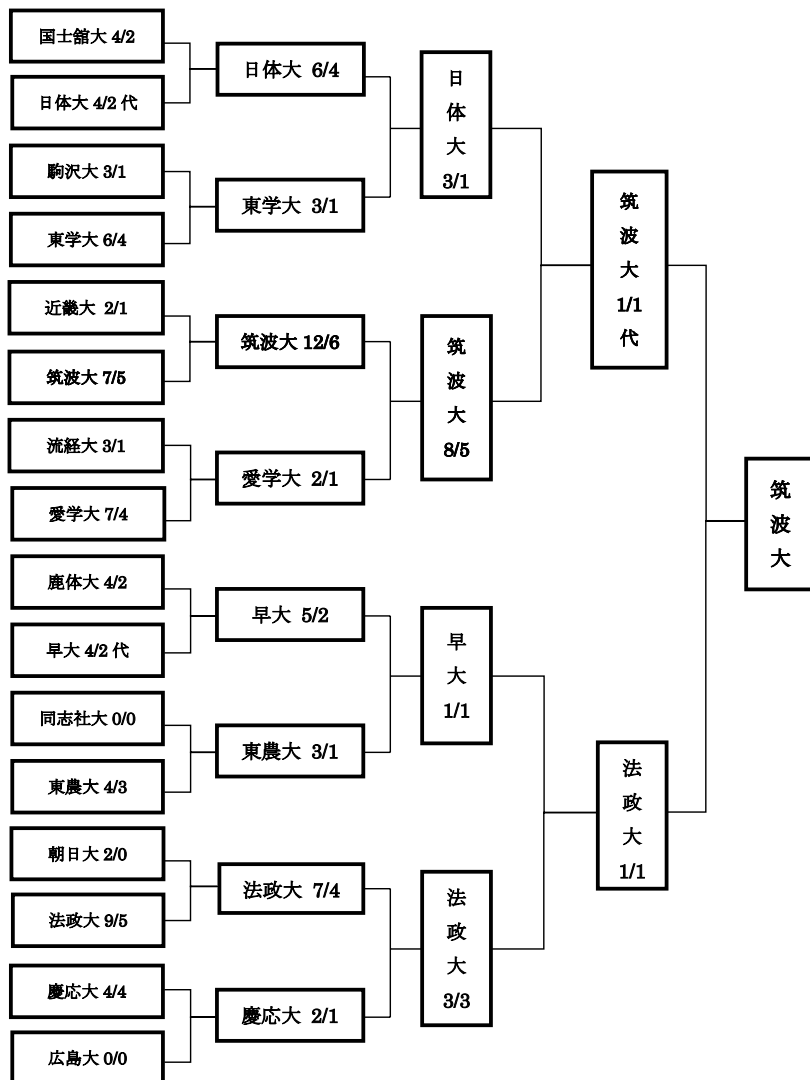
を許した。その直後、お互いに面に飛んだが、一瞬先に仕掛けた山下の面が決まった。試合の行方は代表戦に持ち越された。

代表戦は2年生ながら本学期待のエース、竹ノ内を指名した。対するは先ほどの大将戦でリベンジに燃える秀徳。それに付け加えて秀徳は竹ノ内の高校時代の2つ年上の先輩であった。しかし竹ノ内は相手に臆することなく面に飛び込み、本学2年ぶり11回目の優勝を飾った。

今回の勝利は、部長、副部長をはじめ指導スタッフ、選手以外の学生たちなど、総合的なチーム力で勝ち取った勝利と考えている。来年は、さらなる力をつけて全日本に望みたい。

第 61 回全日本学生剣道優勝大会トーナメント表(ベスト 16)

枠内に記載しているのは大学名、総取得本数/勝者数
代⇒代表戦で勝利



第 61 回全日本学生剣道優勝大会 筑波大学試合結果

メ⇒面 コ⇒小手 ド⇒胴 ツ⇒突き 反⇒相手の反則 2 回による 1 本

一回戦 6(1 1)―0(2)で大阪産業大に勝利

大学名	先鋒	次峰	五将	中堅	三将	副将	大将
筑波大	葛西	林田	加納	山下和	竹ノ内	佐藤	山下渉
	ド ド	メ メ	メ	メ メ	メ メ	メ 引	メ
				メ		分 メ	
大阪産業	前田	藤本	難波	古賀	赤木	仲山	高橋

二回戦 4(7)―2(4)で明治大に勝利

大学名	先鋒	次峰	五将	中堅	三将	副将	大将
筑波大	林田	加納	葛西	山下和	佐藤	竹ノ内	山下渉
	メ コ	ツ		メ 引	メ コ		コ
			メ メ	分 メ		ド	
明治大	檜原	若旅	市川	大貫	茂田	中本	遅野井

三回戦 5(7)―1(2)で近畿大に勝利

大学名	先鋒	次峰	五将	中堅	三将	副将	大将
筑波大	林田	加納	阿部	山下和	佐藤	竹ノ内	山下渉
	コ	コ 反	コ	メ	コ	引	コ
					メ メ	分	
近畿大	大羽	米	福岡	下山	大上	川原	安藤

準々決勝 6(12)-1(2)で愛知学院大に勝利

大学名	先鋒	次峰	五将	中堅	三将	副将	大将
筑波大	林田	加納	木立	佐藤	山下和	竹ノ内	山下渉
	メ	メ メ	コ ツ	メ メ	メ	メ ツ	ド メ
	メ メ						
愛知学院	増田	近重	加藤	河内	久保	加藤	小島

準決勝 5(8)-1(3)で日本体育大に勝利

大学名	先鋒	次峰	五将	中堅	三将	副将	大将
筑波大	林田	加納	木立	山下和	佐藤	竹ノ内	山下渉
	メ コ	メ	メ メ	引		メ ツ	メ
			コ	分	メ メ		
日体大	間込	村瀬	富田	森塚	舞原	村瀬	折田

決勝 1(2)-1(2)、代表戦の末、法政大に勝利

大学名	先鋒	次峰	五将	中堅	三将	副将	大将
筑波大	林田	加納	山下和	木立	佐藤	竹ノ内	山下渉
		引	引	引	引	引	メ メ
	ド	分	分	分	分	分	コ
法政大	平井	塩谷	日下	米満	東郷	北川	秀徳

代表戦：竹ノ内(筑波大) メ - 秀徳(法政大)